

200^キ。自転車の旅完走

奈良↓熊野 小中生24人 元気よく

心臓破りの峠道も、照りつける真夏の日差しも何のその。奈良県曾爾村から熊野市までの二百^キを自転車で旅している小中学生二十四人が九日、ゴールを目指して紀北町海山区から熊野市までの五十^キに挑んだ。(鈴木龍司)

猛暑、筋肉痛にも負けず



険しい峠道にも前を向いて進む児童ら。紀北町海山区の国道42号で

奈良県の国立曾爾青少年自然の家が企画した「真夏にチャレンジ」に参加した小学五年―中学二年生。夏休みの思い出にしようと、三重、奈良県などから集まった。四日に同自然の家を

出発。伊勢本街道や国道42号を走って、七日に紀北町海山区のキャンフィン海山に到着し、二泊した。途中、熊野古道ウオークや川遊びも楽しんだ。

九日朝は同自然の家の富沢邦明所長(左)が「これまでつらいことを乗り越えてきた。さあ最後です」と励ますと、児童らは元気に自転車にまたがり、険しい峠道にも前を向いてペダルをこぎ続けた。

鳥羽市船津町から挑戦している小学六年生の広川遼さん(二)は休憩所となった尾鷲駅前で「筋肉痛になったけれど、今は平気。声を掛け合ってたどり着きます」ときっぱり。真っ黒に日焼けし、たくましさを感じた冒険隊は列をつくって熊野市へ向かい、夕方無事に走破を果たした。